



現状の課題

樹林池と池のある広場には、大きく成長した樹木や低木・生垣で、視界的にも、空間利用からも見通しが悪く、切断されていて、暗く感じる。同時に憩いや集いのための有効利用できる空間が少なく、水際も低木で仕切られ、親水性も生かされていない。

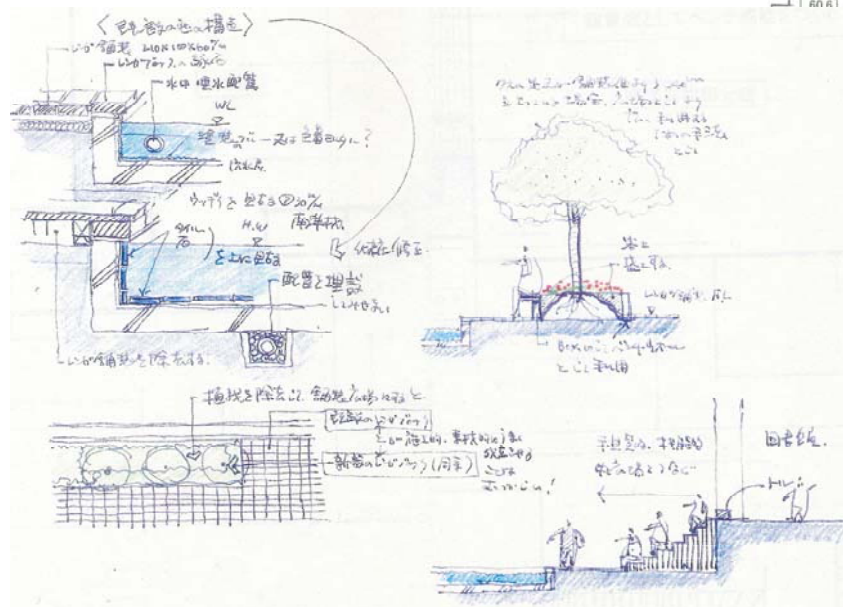
また、動線として中広場と図書館との機能的な軸が接続されていないので、利用者も積極的な参加が生まれない。

計画の方針

- ① 周辺との視界の広がり確保する。
- ② 参加・交流のできる広場をできる限り広くとる。
- ③ 水際と広場とを一体的空間として連続させ、親水性を高める。
- ④ 退官記念樹は原則として位置を変えないが、やむを得ない場合は移植を考える。
- ⑤ 名板柱は朽ちない素材（石・ステンレス等）で新しくデザインする。
- ⑥ 広場の舗装は新しく、レンガ系ブロック・御影石・ウッディなどで親しみと安らぎのある素材でつくる。
- ⑦ 花ものの植物が少ないので彩りのある植物で補植し、四季感を創出する。
- ⑧ 連続するベンチ機能を多くつくり、サインなどの装置についてもバランス良く設置する。
- ⑨ 噴水設備やレンガ舗装の再利用を重視して考える。ただし、水中に沈下する設備管、ブルーの塗装については美観上良くないので補修・取り替え等を行う。レンガ舗装も傷んでいるので、再利用は慎重に検討する。

A 案

既設の2つの池の位置と形状を残し、縁（エッジ）と立ち上がり、床の部分化粧する（御影石・タイル等）。記念樹は、現在置を基本としてその回りをベンチウォール（御影石・木製）などで囲み、地被の花でカバーする。森のエリアは、高木が密植して暗いので、間引き、移植、枝打ちなどで松林を明るくして遠路、ベンチなどを設ける。



B 案

既設の池とその周辺部を新しく作り変える案。キャンパスの通路・広場等は、建築形態と同様に方形型で、優しいスラロームや円形などの空間形態・構造がない。ここでは、池の空間を、広場の中心に求心力のある円形で構成して、ウッディのブリッジを架ける。テーマを〈天・地・人〉として、利用できる空間の拡大と開放性の向上を図り、工学部オープンスペースのシンボル空間とする。森のエリアは、ウッディプロムナードで人を導き、地被の花でブロックガーデンをつくる。夜の照明、噴水を照らす水中照明などによる演出も考えられる。

